

いまごめキャベツ 今米甘藍

大隈重信が伝えた
河内伝統野菜



今米甘藍について

今米甘藍とは、およそ 100 年前にアメリカから入ってきた品種で、今米地区でさかんに栽培されていたことが知られています。当政界を一時引退していた大隈重信氏が、今米の中敬男氏に伝えられた種が拡まったものです。甘いうえに味が濃く、噂を聞きつけたフィリピン公使がわざわざ買い付けにやってきましたが、人糞を肥やしに使っているのを見て、逃げ帰ったそうです。

戦前までは今米をはじめ、加納や川田、鴻池地区でも栽培されていたようですが、今ではほとんど見られなくなってしまいました。このたび、今米甘藍を大切に保存されてきた地元の方のご協力により、市民の皆様へ種を配布することができるようになりましたので栽培にチャレンジしてみてください。



大隈重信元内閣総理大臣

育て方

定植 2 週間前にあらかじめ石灰、堆肥、油かす、鶏糞、化成肥料などの元肥えを施す。

7 月中旬にポットに 5、6 粒の種をまき、適宜間引いて 1 本にする。

種まき後 30 日ぐらいで本葉 6~ 8 枚の苗になるので、株間 40~ 50cm で畝に定植する。

苗が活着してから結球がはじまるまで、2 回ぐらい化成肥料を施す。

収穫は 11 月~ 2 月ごろで、一斉収穫にはならない。

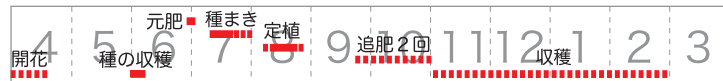
とくに虫がつきやすいので、定植後は防虫ネットでトンネル掛けにすること。

他の品種のキャベツ、葉ボタン、ブロッコリーなどのアブラナ科の植物と一緒に栽培すると、自然に交配し、別品種のものができますのでご注意ください。

この種は品質を保証するものではありません。

この今米甘藍を栽培することによって生じたいかなる損害も鴻池新田会所は責任を負いません。

栽培カレンダー



配布元 史跡重要文化財鴻池新田会所

<http://www.bunkazaishisetsu.or.jp>